

横断型基幹科学技術研究団体連合  
2004年度 第3回理事会 議事録(抄録)

日時：2004年9月29日(水) 15:00～17:30

場所：キャンパスイノベーションセンター(田町)

出席者：(敬称略、各50音順)

会長：吉川弘之

副会長：木村英紀

理事：今野浩、鈴木久敏、館 暲、千原國宏、土井美和子、原田 昭、藤井眞理子

事務局：井上雄一郎、清水祐美

議事：

1. 各委員会の活動報告

(1) 企画委員会(木村副会長)

- 1) 域防災関係の調査研究委員会は、林春男地域安全学会会長のアドバイスも受けながら検討中。
- 2) 科学研究費補助金プログラム(統計科学、筑波大学・椿教授)による国際ワークショップ「技術開発の文法：技術開発加速のための統計技法」が来年1月に企画されており、シミュレーションとSQC調査研究委員会との共催が提案された。

この提案に対し、シミュレーションとSQC調査研究委員会の共催を承認した。

(2) 学術委員会(鈴木理事)

- 1) 多岐にわたる会員学会の意見の集約、参画意識の向上を図るため、会員をクラスター化し「クラスター連絡会」を組織することが同委員会より提案された。また七つのクラスターへの分類試案が提示された。

(3) 知財・教育委員会(今野理事、原田理事) 略

(4) 産業連携委員会(館理事) 略

2. NPO法人化について

NPO法人化について、木村副会長から趣旨の説明、問題点・手続き概要などを井上事務局長から説明。

(1) 横幹連合のNPO法人化を進める理由

- 1) 複数の分野・機関のスペシャリストが参加するプロジェクトの一括請負機能を果たしてほしい、との強い要望が横幹技術協議会から寄せられている。
- 2) 公的研究資金の受託機関となるためにも、NPO法人化は望ましい。
- 3) 国の方針として今後、学会の法人化は社団法人でなくNPOとしていく流れにある。

(2) 問題点

- 1) 現状では研究団体だけを会員とするクローズな団体であること。
- 2) 横幹技術協議会のプロジェクト受託は、特定企業の利益であると判断される可能性がある。
- 3) その他、経費面、事務体制強化などいくつかの課題がある。  
運営上の具体的な問題はその都度検討することとして、まずはNPO法人化を進める。  
担当理事は土井理事とし、井上事務局長と連携して申請手続き準備を進めることとする。

3. 学術会議シンポジウムをターゲットとした会員懇談会について(木村副会長)

日本学術会議(工学共通基盤研究連絡委員会)にて横幹をテーマとするシンポジウムが企画されている(2005年1月18～19日、日本学術会議講堂の予定)。これに合わせて会員懇談会を開催し、シンポジウムで成果を発表してはどうか、との提案がなされた。 審議の結果、本件を承認した。

#### 4. 自動制御連合講演会への参加について

2005年度の自動制御連合講演会(幹事学会は計測自動制御学会、会場は長野)を、「自動制御連合講演会・横幹連合講演」とすることが提案された。 審議の結果、本件を承認した。

#### 5. 横幹技術フォーラムの運営について

- (1) 横幹技術フォーラムへの横幹連合の関与について、テーマの決定、運営は主として横幹技術協議会が担当し、テーマ提起や構成、講師推薦等の面で横幹連合の事業・広報委員会がサポートすることが確認された。
- (2) 横幹連合の「横幹シンポジウム」と横幹技術協議会の「横幹技術フォーラム」のどちらかが適しているかを発表テーマ、内容ごとに判断し、横幹技術協議会と連携を図って開催していくことを確認した。
- (3) 現在、企画が進められている開発・設計プロセス工学調査研究委員会の成果発表については、内容が学術的であることから、横幹技術フォーラムではなく横幹シンポジウムとして開催することとした。

以上